

## 「ころりんピック（低学年）」

授業者 成城学園初等学校 粟津 謙吾

## 1. 大会テーマおよび題材について

本題材は紙コップやプラカップといった身近材と、細切り両面色画用紙のカラードタック、ビー玉を材料として用い、教室中央に設置された坂道を転がす中で、それぞれが表したいものを見つけながら形のよさや美しさ、動きの楽しさなどの造形的変容を楽しむ活動である。

授業名をころりんピックと名づけることで、一つの坂道に対して児童それぞれが転がし方や装飾を工夫し、ハサミの扱いや、素材を貼る、折り曲げるといった技法を活用しながら自分のイメージを持って活動に向かっていく。

また学習環境の仕掛けとして、教室中央の坂道を転がす際には、友だちの活動が自然に目に入り、表現と鑑賞を自然と行き来することができる。転がす、動くという魅力は児童にとって非常に大きいので、作ったものをコースでためし、つくりなおしてまたためす、一つ作り、つくりかえ、つくる一ことが児童の内から起こる欲求として引き出しやすい題材と言える。周りのアイデアや表現を気付かない間に共有しながら、発想やアイデアの広がり、さまざまな工夫を楽しむ題材である。

低学年児童の特徴として、多くの子どもたちは自分の表現を行うことで満足し、外の世界に目を向けさせることが難しいと感じている。そのため、自然な鑑賞が起こる仕掛けを作る必要がある。本授業での「教室中央の坂道」がそれに該当する。本題材は、自然と友だちの発想を共有し、自分の中に取り込み、自ら表したいものを見付けられる、表したいものに活かせるよう意識して開発した。また、子どもの興味関心を引きやすくするために iPad やプロジェクターを積極的に活用し、子どもの活動を指導者が取材し、モニターに映して児童の言葉を拾うことで学びが深まることを期待したい。児童の活動状況によるが、竹早小学校の授業内で使われる名称に合わせ「いいなタイム」と称して共有する時間も設ける予定である。

## 2. 本題材のねらい

○紙コップや色画用紙などを用い、自分の感覚や行為を通して形や色、動きの面白さなどに気づき、工夫して表す。(知識及び技能)

○転がした感じを基に、表したいものを見つけ、周りの友達と関わり合いながら自分の見方や感じ方を広げる。(思考力、判断力、表現力等)

○紙コップや色画用紙を使って楽しく表現したり、友達の作品を鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

### 3. 本題材の指導過程（1時間扱）

準備 紙コップ、プラカップ、カラードテープ、ビー玉、水性マッキー、セロテープ、はさみ、appleTV、iPad、TVモニター、HDMI ケーブル

学習活動	指導の内容と留意点
<p>○坂道、材料に出会い、その他の用具と出会い、本時の活動内容を知る。</p> <p>○手を加えては試し、素材をつけたり、けずっていったり、ひとつひとつの活動を試しながら取り組むことを理解する。</p> <p>○材料と道具を理解し、それぞれが選択して活動をはじめ。 「これとこれを組み合わせて…」 「この紙はつかっていいの？」</p> <p>○つくり、試し、また作る活動を繰り返す。 「これとこれで転がる！」 「ここにビー玉付けたらこんな動きになったよ！」</p>	<p>○活動内容を提示。</p> <p>○活動をイメージさせる際に、子どもたちは「足していく」思考が強いため、減らしていく、形を変えていくという思考も生まれるように提示。</p> <p>○材料や道具の提示 ・数の制限はしないが、一つを使うたびに試してまた必要になったらまだもらいに来る、という流れを確認する。</p> <p>○状況を見ながら面白い発見をしている子を取り上げて iPad で取材。</p>
<p>○友だちの表現を鑑賞しながらヒントを感じ取り、自分の表現に活かす。</p>	<p>○造形的な発展が少ないと思った場合は、造形的な広がりがない子を抱き、共有させる。</p>
<p>○「いいなタイム」がある場合は、モニターの前に集まって、自分や友だちの活動を鑑賞する。 「ここに切り込みを入れたところを頑張りました」 「紙テープをこんな風に使っていると面白いよ。」</p>	<p>○面白い表現や工夫が見られた時には取材したものを皆で共有、「いいなタイム」を取る展開も用意しておく。</p> <p>○時間で切り、最後にコースを転がしたい子がいれば机の上を整理させたうえで転がすよう配慮する。</p>
<p>○片付けをした後、コースを転がして、自分の表現や友だちの表現を振り返る。</p>	

活動の発展

活動の共有





